

■ 期末考査に向けて



早いもので12月8日(火)から10日(木)まで実施される2学期期末考査まで1週間ほどとなりましたが、学習は順調に進んでいますか? 11月18日(水)に昌平祭があるなど、大きな学校行事をはさんだりしたことから、まだ平常の感覚を取り戻せていない人もいるのかもしれませんが、しっかりと準備して臨んでほしいと思います。

前回の中間考査の際にも触れましたが、3年生の中には、「1年生のときからしっかりと準備をしたうえで考査に臨むべきだった」と後悔している人がいます。『進路通信』では、考査前に「しっかり学習して試験に臨むように!」と毎回注意を促していますが、それでもまったく準備をしないで臨んでいる人もいます。現時点で、「どのような進路を選択するか、まだ分からない」という1・2年生の諸君が多いものと思われませんが、今のうちから学習の積み重ねを図っておいた方がいいです。少なくとも教科書やノートはしっかりと確認したうえで考査に臨みましょう。加えて、考査時にノート提出などを求められたりするケースもあるかと思いますが、必ず提出するようにしてください。

■ 3年生の合格・内定状況



3年生の11月24日(火)現在の進路決定状況です。11月は大学の推薦入試の時期ですので、今後、合格者が一気に増えていくものと見込まれます。これまでに、定員厳格化などにより、近年は比較的難関と位置づけられるようになった私立大学にも合格していますので、結果については良い状況にあると言えるでしょう。就職関係では、公務員関係(警察、自衛隊など)の結果待ちの者が数名おり、これから企業の採用試験を受験する者もいます。これまでに企業の採用試験を受験した者については、概ね内定を得ており結果は良好だったと言えます。

まだ合格・内定を得ていない諸君は、最後まであきらめずに目標をしっかりと定め、入念な準備をしたうえで受験に臨むようにしましょう。

【11月24日現在】

	大学	短大	専門学校	就職	その他	合格・内定
決定者数	26名	5名	26名	22名	2名	81名
希望者数	97名	7名	29名	31名	2名	166名

■ 指定校推薦入試の反省



前号でもお伝えしましたが、今年度から推薦入試においても何らかの形で一定程度の学力を見る試験が実施されることになりました。多くは事前あるいは入試当日に小論文やレポートを課されるというものでした。中には、事前に提出したレポートの内容について、入試当日に5~10分程度でプレゼンテーションをしなければならないケースもありました。多くの諸君が、それぞれ各先生方に相談し、面倒を見ていただき、一定程度の成果をあげたものと見られます。しかし、結果は合格でも、事前に提出したレポートに関する理解がきちんとなされていないと、面接やプレゼンテーションで足元を見られてしまうというケースもあったようです。そのような諸君は、合格したからと油断することなく、入学してから授業にしっかりついていけるように、今後さらなる基礎学力の向上に努めましょう。

1・2年生の諸君はこのことを踏まえ、入念に準備して受験に臨む必要があるように感じています。早いうちに3年生諸君が残した志望校に関する「受験報告書」に目を通すなどして対策をしておくことが大切です（※「受験報告書」は進路指導室にあります）。さらに、一定程度の学力試験が課されるケースもありますので、特に5教科（国語・数学・英語・理科・社会）の試験に対応できるように基礎学力をしっかりと身につけておくことも重要でしょう。

昨年度まで推薦入試を目指してきた人は定期考査に力を入れ、高得点を獲得して良い評価を得られれば、基準となる評定平均値を上回り、志望校に合格できる可能性が高かったのですが、今年度から少しハードルが高くなったので、そのことを自覚して準備していく必要があると思われます。特に1・2年生の諸君は今後、学習を進めていくうえで、参考にしてもらえれば幸いです。

■ 就職試験の反省



就職試験については、概ね好調だったと言えますが、残念ながら、なかなか採用されない生徒もいます。あくまで一般論になりますが、採用されない理由として、①欠席が多い、②面接での印象が良くない（落ち着きがないなど）、③基礎学力が極端に低い、といったことが挙げられます。特に欠席が多い生徒は決定的に不利になります（3年間で10日を上回ると多くの採用担当者は「欠席多数」と感じるようです）。面接での印象の良し悪しが結果を左右することは言うまでもありません。中小企業では学力は普通程度で大丈夫とされていますが、「0点」など、点数が極端に低いと厳しい結果になり得ます。多くの企業担当者と話していて、「3年間部活動をしっかりとやってきた明るく元気な人を採用したい」と考えているように見受けられます。加えて、ある程度落ち着きのある人、大企業であれば、一定程度学力のある人を求めていると感じました。やはり1年生からの積み重ねが大事になると言えます。

■ 日本学生支援機構からの回答について

11月18日付で日本学生支援機構から、「大学等奨学生予約採用に係る選考結果の通知時期」についての連絡がありました。主に6月に申し込んだ人になるかと思いますが、7月に申し込んだ人についても、選考を終えた場合には11月20日（金）から12月3日



（木）にかけて順次発送するそうです（※7月に申し込んだ人は基本的に冬休み前後までには学校に結果通知が届くものと思われます）。したがって、本紙がみなさんの手元に届くころには選考結果を渡し終えている可能性もあります。学校に届き次第、該当生徒各自に渡しますので、そのつもりでいてください。6月に申し込んだ人で、12月上旬ごろまでに結果が渡されないという場合には、何らかの理由で選考が滞っていることが考えられます。ここ数年、本校に在籍していた生徒の中でもそのようなケースが数件ありました。基本的に大学や専門学校の入學手続きの前までには送られてくるものと思いますが、場合によっては3月ごろまでお待ちいただくことになるのかもしれませんが。

今回の選考結果に沿って、大学、短大、専門学校等の入學手続きの際に、日本学生支援機構の奨学金の手続きをしていたかかないと、給付型にせよ貸与型にせよ奨学金が支給されませんので注意してください。

最近になって、「奨学金の予約申込みをしなけりばならなかつたころは就職を考えていたのですが、進学に切り替えました。その場合はどのようにすれば、奨学金を申し込めますか？」という質問がありました。入學手続きの際に、日本学生支援機構の奨学金の予約申込みをしたかどうかの確認があると思いますので、「予約申込みはしていないが、給付型ないし貸与型、もしくは両方を希望する」ということで手続きをしていただければと思います。不明な点については、進学先の入試担当係にお問い合わせください。

■ 昌平祭、良い思い出に！

第7回昌平祭が11月18日（水）に行われました。新型コロナウイルス感染症対策のため、公開文化祭ではありませんでしたが、午前中のクラス展示、午後のステージ発表、夕方の後夜祭とそれぞれ楽しめたことと思います。後夜祭ではロックバンドのNovelbright（ノーベルブライト）によるライブが行われ、生徒諸君は大盛り上がりでした。



Novelbrightのボーカル・竹中雄大さんが「それぞれ夢を持ってほしい。その夢を実現するためにはさまざまな困難もあると思うが、信念を持ってがんばってほしい」という内容の話をしていたのが印象的でした。竹中さんもバンドのボーカルという夢を実現するまでにはさまざまな紆余曲折があったようです。夢の実現までには挫折も経験するでしょうし、嫌なことにも直面することでしょう。それを乗り越えていくことが大切になるということです。

きっとみなさんの胸にも竹中さんの言葉は響いたことと思います。まずは、周囲の人を大切に、自分の夢や目標を見つけて、継続して取り組んでみるようにしてほしいものです。この経験をもとに、みなさんが前向きな考えを持てるようになり、充実した高校生活を送れるよう願っています。

■ アメリカ大統領選挙



アメリカの大統領選挙は、日本の大学の推薦入試が実施される時期とほぼ重なります。ちょうど推薦入試に向けて3年生諸君と面接練習をしていたところに今回の大統領選挙が実施され結果も判明してきましたが、「最近の気になるニュースは？」との問いにこの大統領選挙のことを答える生徒はほとんどいませんでした。最近になって、新型コロナウイルスの第3波と思われる国内感染者数の急激な増加もあってか、先の問いに対して新型コロナウイルスのことを回答した生徒がほとんどでした。

そんな中であって、最近の気になるニュースとして、このアメリカ大統領選挙の結果について答えてくれた生徒がいました。その生徒は、「当選したバイデン氏よりもトランプ大統領が再選された方が、現在の国際問題に対してしっかり対応してってくれるのではないかと思う」と話していました。この生徒は中国の台頭を脅威に思っているらしく、「バイデン氏では頼りない」と感じているとのことでした。これはあくまで、何らかの報道に基づくこの生徒の見方・考え方ですが、実際に大統領選挙が行われたアメリカ社会において、ひとつ違っていたら、「トランプ大統領の再選」となっていた可能性があります。

アメリカの報道機関の調査結果を見ていた際、「経済政策」を軸にして投票した人の約8割がトランプ大統領に、「新型コロナウイルス感染対策」を軸にして投票した人の約8割がバイデン氏に投票したとの数字が示されていました。これだけで単純にあれこれ断言するのは難しいことですが、もし新型コロナウイルス感染症の問題がなければ、バイデン氏に投票したという約8割の票がそのままバイデン氏に入っていたかどうかは疑問です。

4年前の就任当初、トランプ大統領は「アメリカ第一主義」を掲げました。そういったこともあってか、少なくともアメリカ国内においてトランプ大統領の「経済政策」についての評価は、決して低くはないという調査結果もあります。ただ、資本主義社会において、分配の構造はなかなか公平にはいきませんので、アメリカ社会でも貧富の格差は大きく、解消していないのが現状です。

国際社会の一員という立場で考えたときに、トランプ大統領はアメリカ国内や世界を分断させるような言動も多かったのではないかと感じています。日本の「平和主義」に基づく「専守防衛」のあり方について、挑発的とも取れる言及があったことも事実です。経済にしても、国際平和や秩序にしても、どのようなあり方が理想かは個人により意見が異なる場所だと思われます。より良い国家、より良い国際社会の構築のために、アメリカの新大統領に就任するバイデン氏にはリーダーシップを発揮してほしいと願っています。まずは新型コロナウイルス感染拡大が凄（すさ）まじい勢いで進むアメリカ社会において、トランプ大統領との違いを示すことが腕の見せ所となるでしょうか。

文責：清水聖（進路指導主事）